

のこぎりがざみ類



のこぎりがざみ類は高知県で「えがに」と呼ばれ、学術的には3種に分けられています。漁業者は3種を区別していて、味が良く、漁獲量が一番多い「トゲノコギリガザミ（まがに、写真左）」、ハサミの色が青く、全ての脚にまだら模様がある「アミメノコギリガザミ（あおた、写真中）」、他の2種よりは小型ですが、攻撃性が強い「アカテノコギリガザミ（あかて、けんかざき、写真右）」と呼んでいます。日本で多く漁獲されているのは、規模の大きな汽水域である浜名湖、浦戸湾、沖縄県など限られた地域で、本種は地域特産種として扱われています。国外の分布は東南アジア、オーストラリア、アフリカなど、世界中の温帯、熱帯域に生息し、「マッドクラブ (Mud Crab)」と呼ばれ、高級食材として有名です。

生物特性

生物学的な情報が一番多いのこぎりがざみ類は、種苗放流が行われているトゲノコギリガザミです。成長は雄の方が大きくなり（図1）、多くは0または1歳ですが、1キロを超える2歳の個体も出現します。アミメノコギリガザミは2キロを超える大型種ですが、年齢と成長は不明です。

産卵期は主に4～5月ですが、7月に産卵する個体も少数あります。浦戸湾では5月から甲幅1cmの稚ガニが出現し、成長の早い個体は秋に、通常は翌年の春に体重約200gになり、最小漁獲対象となります。

県内の漁獲と資源動向

高知県の主産地は浦戸湾で、刺網により主に500～600gの1歳が漁獲されています。漁獲量は4トン前後ですが、最近、減少傾向にあります（図2）。

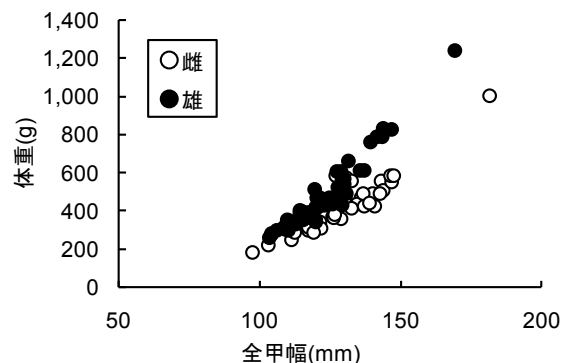


図1 浦ノ内湾で漁獲されたトゲノコギリガザミ全甲幅と体重の関係。

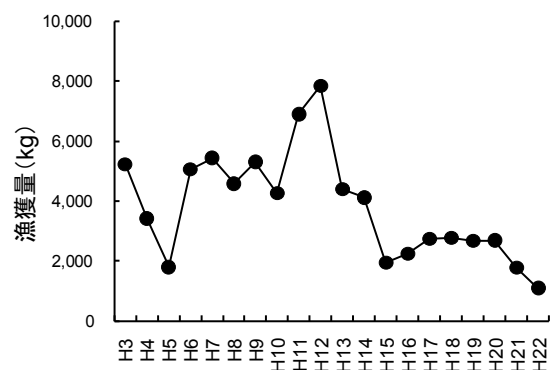


図2 浦戸湾ののこぎりがざみ類漁獲量 (H3～22)。